

公益財団法人リバーフロント研究所 代表理事の塚原です。

当研究所の研究発表会にアクセスいただきまして誠にありがとうございます。

今回も昨年・一昨年に引き続きましてオンラインで開催させていただくことといたしました。

新型コロナウイルス感染症対策という面もありますが、オンライン活用によってより多くの方に研究発表を聴講していただけたと考えましてこのような形とさせていただきました。

どうぞよろしくお願いいたします。

昨年も申し上げましたが、温暖化にともなう水災害の激甚化に対応して治水対策の基本方針がいわゆる「流域治水」へと大きく転換され、それとともに、リバーフロント研究所が取り組む河川環境や流域の生態系、水辺のまちづくりなどの課題も大きな変革を求められています。

水災害への対策を流域一体として取り組むことと同時に、流域の自然環境の保全・再生、流域治水へのグリーンインフラ活用、まちづくり・地域づくりなども含めて一体となったソリューションを追求していかなければなりません。

例えば、まちづくりにおいては、防災・災害復興と合わせた「かわまちづくり」や「高台まちづくり」の取り組み、自然環境においては、新たな知見・新たな技術を活かした多自然川づくりの高度化、生物多様性への国際的な取り組みへの対応など、一段とステージを上げた多様な取り組みが求められています

リバーフロント研究所としましても、このような変革の意識を強く持って取り組みを進めているところであり、「ネイチャーポジティブ」「シビックプライド」「ウェルビーイング」を合言葉に、『安全で豊かな河川と水辺、にぎわいのある地域づくり』を目指してまいります。

この研究発表会を通じてこのような活動の一端をご紹介させていただきたいと思っております。

また今回の基調講演は、こういったことも踏まえまして、「かわまちづくり」の将来展望について多摩大学の中庭先生に、またビッグデータを活用した生物多様性の取り組みについて琉球大学の久保田先生に、それぞれお願いしました。

さらに、リバーフロント研究所では、この7月に「リバフロサポートセンター」を立ち上げました。

当研究所ではこれまでも、多自然川づくり、自然再生、かわまちづくり等の分野における地域の多様な主体の取り組みを支援してまいりましたが、このような取り組みをさらに強化していこうと考えています。地域の現場実践のサポート、技術的なアドバイス、オンラインを活用したセミナー開催など、様々な取り組みを展開していきたいと考えています。

この活動についても研究発表会のなかでご紹介させていただきたいと思っています。

この研究発表会を、是非多くの皆様にご視聴いただき、ご批判・ご意見を賜ればと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。